

## 就職活動は どんなスケジュールでしたか

修士1年の10月にSPIなどの適性試験対策を始めました。年が明けた2月に初めて就職イベントに参加し、採用活動解禁の3月1日から少しでも興味が湧いた会社にエントリーし始めました。

最終的には45社エントリーしていましたが、実際説明会に参加したのは20社です。4〜5月が最も忙しく、毎日就活サイトをチェックし、多いときには週に5社程の説明会に参加しました。

### 志望業界と内定先は

就活を始めた3月時点では視野を広げたいと考え、様々な業界の企業にエントリーしました。当初は研究職、開発職、企画職のいずれかで新しいモノを作る仕事をしたいたい漠然と考えていました。

ですが、仕事内容についてよく調査してみると、企画職は私が携わりたい「つくる」仕事とは方向性が異なるのだなと感じました。また、ある会社の説明



会で詳しい職種説明を受け、「研究職はこれまででない技術を提案し、その技術を最大限に生かして新しいモノを作り出す仕事」、「開発職は安全・確実に動作することを保証できる製品を、技術を駆使して作り出す仕事」と私は理解しました。そこで、私はゼロから新しいモノを作りたいと考えていたため、研究職に就きたいなと思いました。

ちょうどその頃、同じ研究室出身のリコー社員の先輩からリコーの事業や業務について話を聞く機会があり、新規事業開拓に力を注ぐ社風に魅力を感じたため、リコーに決めました。

## 活動体験談

Case  
01

### 大切にしたい価値観や条件を可視化し優先順位を決める

電気通信大学 情報理工学専攻 総合情報学専攻 修士2年 中井 優理子

#### 【就活データ】

- 就活開始：2014年10月
- 就活終了：2015年8月
- 志望業界：業界問わず、職種(研究・開発・企画)でエントリー
- エントリー：45社
- 面接社数：6社
- 内定社数：2社
- 内定先：株式会社リコー

### 理系ナビのサービスはいかがでしたか

研究室に届く「理系ナビ」の冊子を読んでいた。特に企業記事では、知っている会社でも「他にこんな事業もしているんだ」など新しい発見があり、企業研究の参考にもなりました。皆さんもぜひご覧ください。

### 就職活動で一番苦労したことはなんですか

何十社にエントリーしても入社する会社は1社です。その1社を決める過程で、業界や企業の志望優先順位を整理するのに苦労しました。自分はこのような価値観を持っているのかを洗い出し、業務内容、それぞれの企業の社員像、風土や雰囲気、立地、福利厚生など細かに項目を挙げ、点数化しました。最後は主観で決めましたが(笑)、整理する前は頭の中でぼんやりとしていた大切にしたい条件や価値観がはっきりとしたので、とても役に立ちました。

もう一つ大変だったのは、意外と時間を取られる手書きの履歴書です。研究もあって少ない

時間を有効に使いたいの書き間違えて何度も書き直すこともありました。みなさんも余裕を持って準備してくださいね。

### 就職活動で大切に感じたことは

企業のウェブサイトなどで事前によく情報収集し、エントリーシートを書くときに企業が何を求めているのか、求めていることに対して自分にできることは何かを考え、アピールポイントを精査しました。企業ごとにカスタマイズするのは大変でしたが、志望企業に適した内容で自分の良さを伝えるために大切なことだと考えています。

### これから就活に臨む読者へのアドバイスをお願いします

人生を大きく左右する就活は大事ですが、研究もぜひ両立して頑張ってください。大学での研究は、「何でもやってみよう！」が許される環境であり、その環境下にいる今だからこそできることがあると思います。忙しい時期が重なりますが、就活も研究も悔いのないよう取り組んでください。

## 就職活動は どんなスケジュールでしたか

就職活動自体は修士に上がってすぐ意識していましたが、実際に行動を起こしたのはその年の8月、メーカーのインターンシップに参加したのが始まりです。実際の現場で社員の方々と一緒に業務に取り組む中で、仕事の醍醐味や厳しさなど、「働く」ことをイメージできました。また、インターンシップの中で英語を使った仕事や外国籍の方とコミュニケーションを取った経験から、英語を活かして海外と積極的に関わる仕事に興味を持ちました。インターンシップ後は、SPIやTOEICの勉強、インターネットや大学の図書館を利用しての情報収集を積極的に行いました。年が明けてからは、モノづくりの現場を見ることのできる工場見学にも参加。普段の生活では見ることができない業界・仕事に触れることで、理系の活躍フィールドの広さを知ることができたとても貴重な経験でした。

## どんな業界や職種を 志望しましたか

専攻である機械工学で学んだ知識を活かしたいと考えていました。研究室の先輩は重工業や自動車業界へ進む人が多かったのですが、私は「こんな製品に携わりたい」という具体的なイメージを絞れなかったこともあり、幅広く「モノづくり×グローバル」という軸で考えていました。実際に情報収集を進めると、食品業界からアカデミックの分野まで、仕事も生産管理から技術総合職、研究職…と、機械系の知識を活かしてグローバルに活躍できるフィールドが数多くあることに驚かされました。選



### 【就活データ】

- 就活開始：2014年12月
- 就活終了：2015年8月
- 志望業界：機械系メーカー
- エントリー：50社
- 面接社数：20社
- 内定社数：3社
- 内定先：全日本空輸株式会社 総合職技術職

### case

# 02

## 理系の就職

### 活躍の場が広いからこそ、“自分が何をやりたいのか”を考えよう

早稲田大学大学院 創造理工学研究科 総合機械工学専攻 修士2年 吉田 一樹

択肢が多い分、まず「自分が何をやりたいのか」を理解することが重要と感じ、企業の会社説明会に参加して、仕事内容だけでなく会社や職場の雰囲気などを理解することで、自分にとってどんな働き方がマッチするのかを考えるようにしました。

最終的に内定を受諾した全日本空輸は、業界への憧れからエントリーをしたのがきっかけでしたが、就職活動を通して出会った人事担当者・先輩社員の方々と話をするうちに「幅広い将来の選択肢があり、社員全員がキャリアについて真摯に考えている」点などに強く魅力を感じました。世界を視野に入れるのが働くことができる環境はもちろんです。技術の仕事だけでなく、技術とビジネスの橋渡し役を担ったり、経営に携わったりする仕事など、それぞれの能力や適性に合わせて多彩なキャリアを歩んでいける環境が何より魅力的でした。

### 就職活動で大切だと 感じたことは

研究室の推薦応募を使うかどうかの決断を早い時期（5月頃）

に迫られ、とても悩みました。しかし、それまでのインターンシップやイベントなどを通して、理系の活躍フィールドの広さを知ったからこそ、「一番むづこるへ就職したい」と考えるようになり、自由応募で就職活動を進めるといふ決断ができました。その他にも決断を迫られる場面というのは就職活動中に数多くあります。日ごろから決断のために必要な情報を収集するなど、後悔のないようということに行動することをおすすめします。

### これから就活に臨む読者への アドバイスをお願いします

「自分にはアピールするものがない」と悲観する人がいますが、研究に没頭したこと自体が、理系ならではのアドバンテージになると思います。就職活動のためのネタ作りとしてボランティア活動をしたり、ハウツー本のコメントを暗記するのではなく、学生生活で力を注いできたことに自信を持ち、自分の想いを自分の言葉で伝えることが何より大切だと思います。